

令和7年度 第2回大山崎町社会教育委員会議（報告）

- I 日 時 : 令和7年8月27日(水) 午後3時～同4時30分
II 場 所 : 大山崎町役場 3階 中会議室
III 出席者 : 15名
 ○ 出席委員（6名）
 ○ 事務局（9名）
IV 会議名 : 令和7年度第2回大山崎町社会教育委員会議
V 内 容 : 以下のとおり

【要点】

2件の議題（（1）令和7年度生涯学習課関係事業報告について、（2）令和7年度社会教育委員会議関係事業報告について）について、審議のうえ、いずれも承認された。

また、事務局から4件の報告を行った。

なお、傍聴希望者はなかった。

1 開 会 事務局

2 教育長あいさつ

3 委員長あいさつ

※ 大山崎町社会教育委員会議運営規則による会議成立の宣言（定足数を満たす6名の委員の出席を確認）

4 議題

※ 以降の進行は委員長が担当

(1) 令和7年度生涯学習関係事業報告について 事務局
事務局から令和7年度（4月1日～8月8日）の生涯学習関係事業実績について報告

＊質疑応答

＜人権教育夏季研修会について＞

委員

「歴史から学ぶ大山崎の身分制」という演題でおこなわれたようですが、過去には“人権”というようなものは二の次と考えられていたのではないかと思います。どう

いった趣旨のお話をされたのでしょうか。

事務局

この研修会では1点目に、我々は子どもの頃に教科書を通じて、江戸時代に士農工商という身分制があったことを学んだが、最近はその内容が変わってきているということ話をしました。そのうえで2点目に、大山崎町には社家や神人（じにん）と呼ばれる人がいたことなど、どのような特徴があったかについて話をしました。昔に“人権”という言い方があったかは定かではありませんが、大山崎町では、身分の違いを超えて持ちつ持たれつの関係性が非常に強かったと言えます。

<大山崎町の文化財に関するアンケート調査結果について>

委員

調査結果を受けて、特に子ども達に文化財への興味・関心をどうやって持たせるのか、歴史資料館の利用回数をどうやって増やしていくのかというような課題に関する議論の進展があるようでしたら教えてください。

事務局

アンケート調査に関しましては、令和6年度から令和8年度にかけて取りまとめ、令和9年度からが計画期間となる「大山崎町文化財保存活用地域計画」の策定業務の一環として実施しました。現在、審議会では学識経験者の方々に、協議会では関係団体の方々にも色々なご意見をいただいております。

中でも、大山崎町は文化財が豊富で、歴史文化がたくさんあることは皆さんの共通認識としてあります。つきましては、それをいかに活用し、地域の皆さんに知ってもらうのか、またその活用を見据えて大事に保存していこうという機運を高めていくのが、重要になってきます。子ども達には、まずは学校教育を通じて、実際にそれらに触れてもらう、知ってもらうことに、より力を入れていくべきだというご意見をいただいています。

歴史資料館につきまは、社会見学で必ず行くようにする等の具体的な案だけに限らず、10年先を見据えて、どう取り組みを進めていけばよいか検討しているところです。

大山崎町文化財保存活用地域計画に関する進捗情報は、今後も社会教育委員会議で報告させていただきます。

<歴史資料館について>

委員

今年は戦後80年の節目ですので、歴史資料館で開催されていた「平和のいしずえ展」を訪れました。平和への思いを忘れないように次の世代に受け次ぐために、ぜひ今後も色々と企画していただきたいと思います。その中で、2点お願いがあります。まず1点目は、文字や写真が小さく見えづらいところがあったので、大切なところなどは拡大して展示してもらえるといいなと思います。2点目は、2階に行くのにエレベーターがスムーズに使えなかったのが、その点は改善してもらえるといいなと思い

ます。

事務局

ご不便をおかけし、申し訳ございません。文字や写真につきましては、拡大する等展示の工夫をしていきたいと思えます。エレベーターにつきましては、スタッフにお声がけをいただくと使用できるのですが、上手く連携ができていなかったかと思われまます。しっかり対応できるよう善処していきたいと思えます。

＜大山崎町の文化財に関するアンケートの方法について＞

委員

大山崎町の文化財に関するアンケート調査は、どのような方法で行われたのでしょうか。

事務局

中学生に関しては学校に依頼し、全校生徒にタブレット端末を使用して回答してもらいました。町内在住者に関しては町公式 LINE を使用して回答してもらいました。加えて、歴史資料館の来館者にもアンケートを実施しました。

委員

回答者のうち、中学生を除く町内在住者の回答者数が 135 名程度ですので、もう少し回答者数が多ければよかったなと思えます。

事務局

今回は、文化財保存活用地域計画の策定の基礎資料とするため、限られた時間でまずは認知度の調査等を行いました。今後、計画が策定され、様々な事業を行っていくために、改めて規模の大きいアンケートを行うことも考えています。

＜民具調査について＞

委員

7 月に第二大山崎小学校で、民具調査を行われたということですが、小学生はそれらの道具を見て、使い方などを理解できたのでしょうか。

事務局

民具調査については、場所は第二大山崎小学校で行ったのですが、小学生は参加していません。ただ、民具が大変良い状態で残っていましたので、今後事業として子ども達に見てもらおうなどすると面白いと思えます。

◎各委員が承認

(2) 令和 7 年度社会教育委員会議関係事業について

事務局

事務局から令和 7 年度（4 月 1 日～8 月 8 日）の社会教育委員会議関係事業の事業実績について報告

＜京都府社会教育・生涯学習・公民館等指導者研修会について＞

委員

ワークショップでは、グループを作り、それぞれの地域での活動やその目指す姿について交流しました。時間が来ると、また会場全体でメンバーを入れ替えてグループを作り、たくさんの方々とお話しました。いつも「どこから来られたのですか。」という話から始まるのですが、「大山崎町です。」と答えると「いいところですね。」と言ってくださる方が多く、嬉しかったです。交流した内容は、また今後それぞれの地域で活かしていきたいと思いました。

委員

参加してみて、現役の職員の方や一度退職された後、公民館長をされている方など、現在職務として取り組まれている方が多く参加されているように感じました。グループを作って話す時間は短かったのですが、たとえわずかな時間であっても周りの人と話をする機会が大切だなと思いました。

委員

講演では、今の日本社会がどのような方向に向かっているのか、市町村の数や自治体の加入率など具体的な数字を用いてお話されました。1時間降水量50mm以上の年間発生回数の増加などについてもお話され、講師は幅広い分野に関心を持っておられるのだなと思いました。普段「何もしていない状態」から「主体的に取り組む」の間には階段のようなものがあって、階段の前までは行けるけども、そこから登ることが難しいのです。「楽しいよ、一緒に登りませんか。」というようにしながら、気づいたら登っていた、笑顔になっていたというような状況を作っていくことが大切だとお話されました。

◎各委員が承認

5 その他

※ 以降の進行は事務局が担当

事務局

事務局から次の4件について報告

- ①町議会定例会（6月）における一般質問・答弁について（生涯学習課関係）
- ②令和7年度町社会教育関係団体補助金について
- ③中央公民館の休館及び長寿苑での再開について
- ④町民体育祭の開催について

6 閉会